



日刊 労働千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号 (動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2939番
(公) 043(222)7207番

96.10.23 No. 1186

今こそJR東労組を解体しよう! 「お払い箱」にあひえ 國労解体方針で権力に泣訴。

魂を売り渡した
のは誰か?

JR東労組は、九月九日から十日にかけて全専従者学習会を開催して、一二月までを「国労解体月間」とすることを確認し、「モデル職場を各地本一ヶ所設定し、常駐体制を敷いてたたかいをつくる」ことを決定した。JR東労は、この会議のなかで「国労とのたたかいに全組合員を結集する」「国労組合員に最後通告をする」「会社をもつき動かしていく」と言っている。当局の手を使つて、卑劣な国労(動労千葉)破壊攻撃を一斉に行なうというのだ。

彼らの機関紙で「九六秋の陣」と称して打ちだされている「方針」は、「国労解体のための取り組み」と「諸手当て改善の取り組み」の二つである。実質的には「国労解体」の一本にしばり込んだということだ。

また十月八日には、国労東京地本に対して、「公開討論に關する申し入れ」なる文書が出されている。一方で、当局と手を結んで国労解体攻撃をしけけ、他方で「公開討論」申し入れるという自体、まさに革マルらしい「ごく慢・卑劣なやり方だ。しかし問題は、なぜ今JR総連・革マルは、異様なまでに「国労解体」を絶叫し始めたのか、ということである。

労働運動の産業 報国会化の先兵

彼らは、機関紙で「国労は変質した」「自民党権力者・悪徳経営陣に身を売った国労」などと毎号のように汚く書き連ね

しかも、労働・革マルは、分割・民営化を前にした八六年七月、「スト絶滅が私の使命」と言つて、いち早く総評脱退を脱退し、労働運動の産業報国会化

している。しかし、よく差かしげもなくこんなことが言えたものだ。JR東労こそ、十年以上も前から「自民党権力者や悪徳経営陣に身を売り渡して」生きてきたのではなかつたのか。

八六年の衆参同日選挙のときに、日本の労働組合のなかで史に初めて自民党を支持したのは、JR総連の前身たる動労・革マルだった。松崎は、このときを前後して、「(中曾根は)風見鶲なんていつてやがる」といが、彼の現実感覚はスゴイし、理念をもつていて、「(三塚は)実によく勉強されて、しかも信念があるんです」「秦野章(元警視総監)は好きです」「好きな党が(自民党以外)ほかにはない」等々、自民党に媚びへつらつた。今松崎が悪魔のごとく罵る亀井静香の実兄の選挙(広島県議選)には自ら応援にかけつけてもいる。さらには、自民党機関紙「自由新報」に登場し、

結局、JR東労組の言動の全ては、これまでの飼い主(支配権力から)「お払い箱」にされようとしていることへの危機感を背景としたものに他ならない。自ら進んで奴隸となつた者の末路がここにある。そして今彼らは、最後の生き残りの道を「国労解体」に求めているのだ。

それにも彼らには、「国労解体」の正当な論拠は何ひとつない。そこでテツチあげられたのが、革マル特有の「謀略論」

の最先兵となつた。彼らはJR連合やグリーンユニオンに対し「産業報国会の申し子だ」と言ふが、その先兵となつたのは自分なのだ。このような輩が「あたりまえの労働運動」とか、「憲法を守れ」「抵抗とヒューマニズム」を語ることほどグロテスクな姿はない。

JR東労・松崎は、「改革の崇高な理念」などというが、国鉄分割・民営化攻撃のどこに「崇高な理念」があつたというのか。ときの権力者が半ば公然と語つたように、「組合をつぶすためには分割・民営化しかなかつた」——これが「国鉄改革」の本当の目的であつた。そして国鉄の利権あさりである。職場には、二〇万人の首切りと言語を絶する不当労働行為が吹き荒れた。こうしたことの全てに手を染めてきたのがJR総連・革マルに他ならない。

言つてゐることのメチャクチヤな論理構造は、まさにハルマゲドンを叫び、自らサリンを撒いてそれを「証明」して見せたオウムそつくりである。なぜ國家権力が大規模な謀略を仕掛け、一切の合理化や首切りに積極的賛成し、軍需生産の推進を主張し、賃下げまで願いでるような東労組や、国が株式の半分を保有しているJR東日本の経営陣を破壊しなければならないのか。まさに白を黒と言い包めるデマの、ら列に他ならない。

列車妨害事件も、一連の事実経過を見れば、革マルによつて引き起こされることは明らかだが、「謀略」を語り、それを真実らしく「証明」して見せなければならぬという、彼らの論理構造から言つても、革マルの仕業であることはますますはつきりしたと言う他ない。

JR総連・革マルは、組織死亡の危機にたつて、「国労解体」方針は危機ゆえの凶暴化だ。今がチャンス! 今こそ、ファシズム運動に転落したJR総連解体の闘いに総決起しよう。

4483号
10月18日付日刊
4484号
訂正
いざま